様式４

令和７年度第３回
富士見市社会教育委員会議
議事録

<table>
<tr><td>日　　時</td><td colspan="6">令和７年７月２９日（火）　開会　午後７時００分
閉会　午後９時１５分</td></tr>
<tr><td>場　　所</td><td colspan="6">富士見市立中央図書館　２階　視聴覚ホール</td></tr>
<tr><td rowspan="5">出 席 者</td><td rowspan="4">委　　員</td><td>渡邉（知）委員</td><td>関野委員</td><td>戸田委員</td><td>深瀬委員</td><td>本田委員</td></tr>
<tr><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td>八木橋委員</td><td>河村委員</td><td>渡邉（誠）委員</td><td>檜山委員</td><td>亀森委員</td></tr>
<tr><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td>事 務 局</td><td colspan="5">生涯学習課　副課長、主任</td></tr>
<tr><td>公 開 ・
非 公 開</td><td colspan="6">公開（傍聴者０人）</td></tr>
<tr><td>議　　題</td><td colspan="6">１　あいさつ
２　協議事項
・第３５期の進め方とテーマについて
３　その他</td></tr>
</table>

議　事　内　容
1　あいさつ 2　協議事項 ・第３５期の進め方とテーマについて 【議　長】前回から第３５期の議論の進め方について話していたが、テーマは急いで決めなくてもよいという結論になった。その際、今後行っていきたいこととして、市内の社会教育施設見学があがっていたので、ぜひ実施したい。市内の社会教育施設について、事務局が資料を準備しているので、その説明をお願いしたい。 【事務局】議長からお話のあった社会教育施設の現場見学について施設側に確認したところ、見学日時、人数を調整した上であれば、実際に現地に行ってサークル活動や講座の見学や、説明対応が可能であるということだったので、日時を決定した上で調整をしたい。その時は、チームに分かれて訪問も可能。資料として、公民館、交流センター、コミュニティセンターの施設分類を作成したので、説明する。 事務局より【施設分類】の資料について説明。 【委　員】資料を見ると新しくできた施設の管轄は協働推進部の傾向があると感じた。各自治体で地域づくりの所管を教育部局から、首長部局へ移管する動きが広がっているように感じるが、将来的には富士見市もその方向なのか。また、地域によって施設の設置数で不平等は生じているのか。 【事務局】富士見市には公民館が４館あるが、ふじみ野市では公民館条例が廃止となり、上福岡西公民館が大規模改修後に文化施設に移行する予定である。富士見市ではまだ議論になっていないが、今後、人口減少の中、現在の施設数を維持することが困難になった場合は、複合施設化などの議論もあるとは思われる。続いて、地域による施設設置数の不平等については、４公民館と２交流センターがあり、概ね市内全域がカバーできていると感じている。公民館・交流センター以外にもコミュニティセンターもあるため、サークル活動をしたい方は近くに施設がないということにはなっていないと感じている。一方、地域の方から耳にすることがある不平等の意見としては、施設の設置場所ではなく各施設の駐車場についてである。駐車スペースが充実した施設と不足している施設の差について意見を伺うことがある。 【委　員】ピアザ☆ふじみはどのような施設なのか。 【事務局】どちらかというと貸館施設であるが、条例では【あらゆる世代が集い、にぎわいを創出するとともに、市民生活の向上と地域の活性化を推進するため】設置すると記載されている。 【委　員】条例名は何か。

【事務局】富士見市立ピアザふじみ条例である。
【委　員】貸館がメインということだが、公民館、コミュニティセンター、交流センターがあるが、この３つは違う運用をしているのか。また、設置当初に目的を意識して設置されたのか。
【事務局】担当者から話を聞いたところ、公民館は社会教育の施設であることを強く意識しており、交流センターとコミュニティセンターは教育の観点よりも地域の交流を目的とした施設といった印象を持った。しかし交流センターでも様々な事業は行っている。
また指定管理者が管理運営している針ケ谷コミュニティセンターも、ヨガや料理教室などの講座を開催し、集客に力を入れている印象がある。
２点目の各施設の設置については、各条例の設置目的に基づき設置したものと思われる。鶴瀬西交流センターは以前鶴瀬西公民館であったものが、建て替えの際に今の交流センターとなった。ふじみ野交流センターについては、長らく公民館がない地域に交流センターという形で建設された。
【委　員】社会教育主事は公民館だけにいるのか。また公民館には必ず配置されているのか。
【事務局】必ず配置されているとは言い切れない。社会教育主事の発令は教育委員会が行っているため、市長部局に属する交流センターやコミュニティセンター職員には発令できない。
【委　員】必ずではないが、社会教育の専門家である社会教育主事が公民館にはいるというイメージでよいか。
【事務局】そのとおりである。市としても社会教育主事を設置できるように社会教育主事講習に係る予算措置と、公民館等へ講習への参加希望者照会を毎年行っている。
【議　長】ほかに質問等がなければ、第４次富士見市生涯学習推進基本計画の施策体系について説明をお願いする。

事務局より【施策体系】の資料について説明。

【委　員】第４次計画の計画期間は何年間になるか。
【事務局】5年間を予定しており、令和８年度から令和１２年度までの計画である。
【議　長】計画の目標は変わらないとのことだが、基本目標や基本施策も変わらないのか。
【事務局】本計画は、市の第６次基本構想第２期基本計画に沿ったものであり、この第２期基本計画のマイナーチェンジに合わせて、第４次計画も修正している。また第３次計画の中では、基本目標④の生涯学習施設関係について章立てをしていなかったが、施設の充実についても記載すべきと考え、今回追加した。
【委　員】基本目標④以外に変更はないのか。
【事務局】第６次基本構想第２期基本計画にあわせて、統合した基本施策もある。
第３次計画では「学習環境の整備」について、一つの施策の柱としていたが、第４次計画では、「推進体制の充実と学習情報の発信」に統合して

いる。
【委　員】くくり方が少し変わったという認識でよいか。
【事務局】そのとおりである。組み換えを行い、どこを重点的に取り組むか分かりやすい形になるよう作成している。
【議　長】他に質問がないのであれば、第３４期の議論の流れの振り返りながら、認識合わせを行う。
第３４期では富士見市の社会教育の課題を洗い出し、その課題を解決するための方策を提言することとした。
まず初めに各委員が考える理想の姿を話し合ったのが資料①。活動に参加しやすいこと、活動の状態が良好であること、多様性や相互が尊重されることなどの意見が出た。次に生涯学習推進アクションプランを参考に、富士見市の社会教育の強みと弱みを話し合ったのが資料②。その２つを合わせてさらに伸ばしたい強みと補いたい弱みを話し合ったのが資料③である。目指したいことが幅広くなりすぎたため、資料④で整理した。さらに的を絞るため、目指したい状態を要素分けして、分解して議論を行ったのが資料⑤である。そのように議論を進め、具体的に絞り込み、実現可能な提言とするため、生涯学習ガイドをいかに多くの人に関心をもってもらうかに焦点を絞った。生涯学習ガイドに興味関心を持ってもらうためにはどうしたらよいかを検討したのが資料⑥、更に具体的な提言にするため検討したのが資料⑦である。
まずは資料①について、第３４期の社会教育委員は各地域で社会教育に関わる活動をしている方が多かったため、活動している中での理想の姿を挙げ、まとめたのがこの表である。
続いて資料②について、富士見市の社会教育の強みと弱みである。富士見市生涯学習推進アクションプランで市の事業の振り返りの結果を読み、富士見市の社会教育の強みと弱みを洗い出してまとめたものである。何か補足・ご意見はあるか。
【事務局】生涯学習推進アクションプランとは、富士見市で実施している生涯学習事業ごとに、事業概要、事業目的、評価をまとめたものである。およそ１７０弱の事業が掲載されており、それを見てご意見いただいたものである。
【議　長】市の生涯学習の理想の状態と強み・弱みなどの現状を踏まえ、目指すものをまとめたものが資料③である。「最終的に実現したい状態・解決したい課題」を挙げ、そのために「目指したいこと」をまとめた。それを達成するために、「特にフォーカスすると良さそうなポイント」を一旦挙げたものである。この時は、多くの人を巻き込むには子どもがキーになるのではないか、子どもに参画してもらうには親世代への働きかけも重要とまとめたが、提言を出すにあたっては、偏りすぎない方がよいと考え、最終的にはなくなった。
施策として、焦点を絞るために考えを掘り下げたものが資料④である。目指したいことを要素分解し、どこにフォーカスするか検討を行った。目指したいことが全ての要素を包含しているため、さらに丁寧に分解して、それぞれをまとめたものが資料⑤である。分解して考えた結果、全

て大切だという共通認識を持ったが、この中でここに重点を置いて、ここを捨てるという判断をすることは難しかった。
そこから生涯学習ガイドへつながった流れは、資料「これまでの流れ」にまとめている。結論として、今市内で活動している団体がすべて入っているプラットフォームをつくることがスタートではないかという結論になった。情報を一元化・集約化した富士見市社会教育ポータルのようなものを作り、その中の情報を引き出しやすくするのがよいのではないかという話がでた。同じように、市内で開催される様々なイベントを一元化し、検索できるものがあるとよいという意見もあったが、市のホームページで公開されているイベントカレンダーが近いものではないかということがわかった。様々な意見が出たが、そのようなデータベースを作ることは、予算的な問題や誰が実行するかなどの課題があり、理想ではあるが現実的ではないという結論に至った。まずは実現可能な解決策として、既存の生涯学習ガイドに着目した。生涯学習ガイドは活かしきれておらず、もっと活かせれば生涯学習ガイドは理想のデータベースに近づくのではないかと考え、まとめたものが今回の提言である。
提言を作るにあたって、生涯学習ガイドの現実的な改善についてまとめたものが資料⑥と資料⑦である。資料⑥はどこにフォーカスすべきかを考えたものである。資料⑥で考えた内容をそれぞれ掘り下げて具体的な案を考えたものが資料⑦である。そのように検討を進めた結果が提言書の「生涯学習ガイド」リニューアル・プランである。これまでの内容で質問等はあるか。

【委　員】生涯学習ガイドをまだ見たことがない、知らない人もいるのではないか。

【議　長】一度実物を配布してもらいたい。

【事務局】承知した。令和７年度の生涯学習ガイドはまだ提言書の内容を反映できているものではないことを承知してほしい。

【委　員】ホームページにも掲載されているのか。

【委　員】ホームページにも掲載されているが、ＰＤＦをダウンロードするものになる。公民館等ではそれを印刷して綴じたものが配布されている。

【議　長】生涯学習ガイドの他に見てみたい資料はあるか。

【委　員】第３次富士見市生涯学習推進基本計画の冊子をいただいたが、とても勉強になったので、新規に社会教育委員になった方に配布した方がよい。

【事務局】この会議の後に皆さんにお渡しする。

【委　員】生涯学習推進市民懇談会と生涯学習推進委員会と社会教育委員会議の役割の違いを教えてほしい。

【事務局】生涯学習推進委員会は、生涯学習に関する関係各課によって構成されている。生涯学習推進市民懇談会は、生涯学習推進基本計画作成にあたり地域の方の意見を聞く場となっている。
以前は生涯学習推進基本計画策定の主担当が地域文化振興課、副担当が生涯学習課であったため、この社会教育委員会議とは別に組織していた経緯がある。
現在は、生涯学習推進基本計画の所管課が生涯学習課のみになったため、社会教育に関する諸計画を立案することが職務である社会教育委員会議

と、生涯学習の計画について意見を述べる生涯学習推進市民懇談会の役割が重複しているように感じる方もいるのではないか。

【委　員】社会教育委員会議からも、推薦で懇談会に参加しているのか。

【委　員】以前は特にそのような枠はなかったが、現在は社会教育委員会議からも参加している方がいる。

【事務局】地域の方が参加している生涯学習推進市民懇談会も、庁内の職員で構成している生涯学習推進委員会も、両方とも生涯学習推進基本計画のための会議である。

推進委員会は庁内の生涯学習に関する課の所属長が集まり、生涯学習推進アクションプランを用いて事業の評価や意見、計画策定にあたっての意見をまとめているものである。

市民懇談会は、同様の内容を地域の方が行っている。社会教育委員会議は、社会教育に関係のある方がメインであるが、市民懇談会は文化芸術振興委員会の方や児童館の方に参加いただくなど、社会教育委員会議とは違うメンバーに意見を伺っている。現在、どちらの会議も事務局が生涯学習課であるため、両方に参加されている方には、内容が重複してしまう可能性もある。

【委　員】生涯学習ガイドについて話し合った内容は、市民懇談会にも共有されるのか。

【事務局】提言内容を詳細に伝えることはないが、計画の重点施策と考えているため、概要説明を行う。第４次計画の話に戻るが、今回の新しい計画を作成するにあたり、教育長から社会教育委員会議からの提言書の内容を踏まえたものにするように指示されている。まだ骨子のみの公表になるが、第３４期の提言書の内容でもある生涯学習ガイドのリニューアルについては重点施策として入れていきたいと考えている。

【委　員】市民懇談会も提言のようなものを出しているのか。

【事務局】市民懇談会は、地域の方に計画に関する意見を伺う場であり、毎回事務局が具体的なテーマを決めた上で会議を開催している。提示する内容について意見をいただくが提言はいただいていない。

【委　員】富士見のあゆみに社会教育の経緯のようなものが掲載されている。ほかにも図書館の資料で勉強しているが、富士見市の社会教育の変遷がわかるような資料はないのか。また、今はどうなのかを俯瞰的に見るためにあった方がいいのではないか。昔は社会教育だよりを発行していたが、すでに休刊しており歴史を追うことが出来ない。

【事務局】そこまで深い歴史になるとまとめた資料はない。生涯学習推進基本計画の第１次計画に生涯学習の歩みがまとめられているが、昭和までいくと図書館にある資料になるのではないか。その時代のことを知っている職員もおらず、そこまでの資料はすぐには出てこない。

【事務局】社会教育だよりをたどるのが変遷を追いやすいが、すでに休止されており、それ以降ものだと各公民館が発行している公民館だよりなどが近いものになるのではないか。公民館に限って言えば、富士見の公民館という資料を毎年発行しているため、変遷は確認できるのではないか。

【委　員】時系列で整理されている資料はないのか。

【事務局】市全体の歴史の年表はあるが、社会教育に特化した資料はないと思われる。ここ２５年間の歩みであれば生涯学習推進基本計画で追うことは可能である。

【委　員】公民館の周年記念冊子には、詳細に載っておりわかりやすくまとまっていたように感じる。

【委　員】富士見のあゆみを購入して、富士見の社会教育が半面にまとめられていたので、他にも資料があるのではないかと思った。社会教育について学習しようと思っても、前後のつながりがわからず、途切れ途切れになってしまう。

【委　員】富士見市史編纂の話などはないのか。

【事務局】富士見市史は、当時の市史編纂室が編纂してまとめたもので、平成の初めの頃に刊行されたものが最後である。それまでの期間であれば社会教育の歴史についてもまとめられており、平成に入った頃までは変遷などを辿ることが出来る。市史の編纂事業が終了し、そこから３０年くらい経過し、市政５０周年に合わせて富士見のあゆみという富士見市史のガイド版が発行された。

昭和５０年代は公民館活動が盛んであり、周辺地域の中でも先行していた部分もあるため、富士見のあゆみでも取り上げられている。数十年間の活動をまとめて１冊の本にはしていないため、各公民館などで発行している公民館だよりなどをすべてまとめた本は今のところはない。

【議　長】他になければ次に進む。第３４期の話の流れを共有したが、では今期どうするかについて話をしたいと思う。何か自由に意見があれば。

【委　員】生涯学習ガイドのリニューアル版は職員が作成するのか。

【事務局】リニューアルは行うが、いきなり全ての意見を反映するのは難しいため、次年度はどこを反映させるのか課内で調整して進めていく。少しずつアップデートをしていくのでその過程でもぜひ皆さんのご意見も聞かせていただけるとありがたい。

【委　員】昨年度までの考え方を共有いただいたが、子どもをターゲットにしたことはとても良いと思う。多様な関わりやハードルを感じずに取り組める場所は義務教育である小学校だと考えている。富士見市は昼間人口が少ないため、親世代へアプローチするのが難しく、子どもからというターゲットはとても良い。また、強み、弱みが表にしてありすごくわかりやすいが、特に弱みがよくまとまっている。行政の姿勢についての、全体的にどういう設計意図をもっているのか不明瞭といった意見に納得した。他にも社会科副読本「ふじみ」をせっかく作成しているのであれば、富士見市でコンクールなどを開催してより深く学ぶ機会を設けてもいいのではないか。多くのことをやりすぎて全体的な市の設計意図がぼやけている状態でいるため、ターゲットを絞るのもよいのではないかと思う。

【議　長】子どもにフォーカスすることが良いのではないかということや、市全体の設計意図がわかりにくいので、はっきりした方がよいという意見でよいか。

【委　員】せっかく市長が全国手話言語市区長会長を務めていたので、それに関連した取組みを実施することや、社会科副読本「ふじみ」を作成している

のであれば、子どもたちが富士見市の宣伝ができるような市を目指すのもいいのではないか。

【議　長】他に意見が無ければ、一人ひとり順番に意見を伺う。

【委　員】第４次生涯学習推進基本計画案の骨子を見て、前期を踏まえてそれを深掘りしていくのもいいのではないか。

【委　員】第３４期の提言書は絞った分、具体的で実現可能な提言になっていると感じる。すべてをやることは難しいため、どこかに特化していく視点はとても良いのではないか。計画案の施策体系にある重点施策がまさに市としてこれから取り組んでいきたい内容になるので、これを実現するためのことを検討していくのも良いと考える。

【委　員】行政は公平性が重要であり、一部に贔屓した内容にならないように気をつけなければならない。第４次計画の重点施策を踏まえて提言を出せるのがいいのではないか。

【委　員】２年間の社会教育委員会議で話し合って、提言書を出したが、入間地区社会教育委員部会に参加して、様々な方の意見を聞く機会がある。もともとは地域子ども教室からの当て職で参加しており、子どもにフォーカスしていきたいと考えていたが、現在は市のＰＴＡ連合会は市内１８校中８校しか参加していない状態であり、町会も役員などのなり手がおらず、地域のコミュニティがガタガタになっている状態である。自分はＰＴＡ活動を生き甲斐のように楽しんで参加していたが、理解してくれる人も減っており、できる人がおらず難しい局面になっている。第３４期で富士見市の強み、弱みをまとめているので、そこから焦点を絞って掘り下げていくのがいいのではないか。また新しく参加された方の意見もそこに加えていければよいのではないか。

【委　員】子どもにフォーカスといったが、子どもだけでなくそこから広げて行きたいと考えている。

【委　員】現在、様々な機能が弱体化している過渡期であり、そのような中でどこにフォーカスしていくか、それにあたっては第３４期でまとめた強み、弱みを活かしていくという意見であったが、自分も同じ意見である。共助が弱くなっている状態である。そこをなんとかしたいと考えている。第３４期はせっかく提言するのであれば実現可能な内容にするということで焦点を絞ったが、もう少し大きなことを提言してもいいのではないかという気持ちもある。

【委　員】社会教育委員会議は法律に基づき定められており、本来は教育委員会からの諮問をいただけるのが一番良いが、特にないため、今、策定中の生涯学習推進基本計画について話していくのがよいのではないか。第３次計画の達成状況、課題などについての議論が必要であると考える。また、第４次計画の計画案にも意見を述べさせていただくとよいと考える。社会教育施設についても、市の方向性が定まっていないように感じる。各施設の在り方を市としてリサーチする必要があり、それにあたってのきっかけ作りができるとよいのではないか。市内の施設見学と合わせて、ふじみ野市の組織改編の事例調査も行えると今後の検討に役立つのではないか。また指定管理の施設が一部あるが、それを市として推進してい

くべきなのかを検証していく必要があるのではないか。どのように生涯学習施設を捉えていくべきか検証していくべきである。
生涯学習ガイドについては、第３４期で丁寧にまとめていただいたが、一方で富士見市の施設利用の手続きが非常に大変だという意見を伺うことがある。利用者目線で考える施設利用方法について考えて、見えないバリアを下げることが重要である。

【委　員】現在は三芳町との施設利用予約について大きな違いはないように感じるため、以前の話ではないか。

【事務局】システムで仮予約をし、利用料金を支払ったのち本予約となる。

【議　長】予約システムの施設検索は不便を感じる。施設ごとの日にちごとなど調べられる範囲が狭い。

【委　員】第３４期から参加させていただいたが、入間地区社会教育協議会にも関わっており、そこで１３市町の話を聞くことがある。そこに参加している方から、年８回も社会教育委員会議が開催されていることに驚かれる。その他の市町村では会議が年２～３回程度のところが多く、ぜひ富士見市を見学したいと言われたこともある。これまでの経緯を自分なりに調べてみたが、富士見市の社会教育は充実している部分はあったと言えるが、それが見える形になっているのかという話になると難しい。第３４期のテーマである生涯学習ガイドが富士見市の生涯学習の現状であり、内容が薄く、見方もわからない。このテーマを考えていけば富士見市の生涯学習の見える化が図れるのではないかと思った。その結果がどのように表れるかは実際に反映されてみないとわからないが、具体的な内容について絞れたのはよかったと考える。現在は１０月に開催する入間地区社会教育協議会の研修会の準備をしているが、より先進的な取組が多くあることがわかる。そこを研究する方法も一つではないか。

【委　員】受益者目線の話になるが、公民館・交流センター・コミュニティセンターは利用しにくいと考える。本日、鶴瀬西交流センターに行ったときに、利用について伺ったが、市内目的内団体の抽選が終わる毎月６日以降に、当日空いている部屋を通常料金の４倍で利用できると案内があった。当日にならないと空いている部屋がわからず使いにくいだけでなく、経済格差を非常に感じる。これも一つのテーマになるのではないか。

【議　長】市内目的内団体に属さないと非常に使いにくいという意見でよいか。

【委　員】市内目的内団体に登録していない市民にとっては、使いにくいという事実がある。

【委　員】更新は簡単であるが、新たな登録自体はハードルが高い。

【委　員】そこにも所属していないと、当日以外の予約ができず、あらかじめ予約を入れることも難しい。

【事務局】補足にはなるが、登録外団体も毎月６日以降であれば、事前予約は可能である。４倍料金がかかってしまうが、個人的に学習したい方も事前に相談いただければ予約を受けている。鶴瀬西交流センターの案内がどのようなものかはわからないが、市全体として事前予約が不可能ではない。

【委　員】公民館、交流センター、コミュニティセンターの予約システムでの仮予約は毎月５日まで入れることが出来ない。この毎月５日というのは抽選

漏れ団体の再抽選の日であると認識している。その翌日以降でなければ予約できず、同じ市民なのに制限を受けているように感じる。

【委　員】逆に言えば、普段活動している団体を優先してくれという話もある。

【議　長】富士見市のポリシーの問題にはなる。

【委　員】生涯学習推進市民懇談会の報告にもなるが、令和６・７年度生涯学習推進アクションプランと計画の骨子案についての検討を行った。その中で「自由な学びにより生きがいができる」という目標の「生きがい」という言葉に反応された方がいた。この街には多くの方が暮らしており、その中には生きにくさを感じている人もおり、「生きがい」という言葉がつらい人もいるという意見があった。一人ひとりが違う視点で生きており、このような場がその視点が交わる場なのではないか。第３４期は一人ひとりの視点を述べ合い、提言も多くの視点の入った良い提言になったと感じる。

計画の目標の中で、新たな人材の発掘を重点施策としているが、１０万人規模の市町では難しいように感じ、近隣の市町などの境界を越えた取組みの検討が必要ではないかと考え、市民懇談会で意見を述べた。今期どのようなことをしたら良いかについてはまだ考えがまとまっておらず、他の方の意見を伺いながら考えていきたい。

【議　長】本日はここまでとし、また次回、方向性を話し合いたい。